

本日も議論いただきたいポイント

1 実演団体のフランチャイズ化

- (1) バレエ・オペラの実演団体が少ない中、劇場で優れた舞台芸術の創造と発信のためには、トップレベルの実演団体が当劇場を活動拠点にできるようにする。
- (2) 劇場での定期的な公演とともに、次世代育成の取組などへ協力が得られるようにすること、また、劇場としても、練習機能の強化などにより、団体の活性化につながるようにする。
- (3) バレエ・オペラの公演の際には、オーケストラが不可欠であり、実演団体とオーケストラとの連携が、質の向上において重要である。劇場とオーケストラとの関係についても検討する。

2 公費の負担

- (1) 次世代育成や舞台芸術の活性化などは、行政として大切な取組であり、公費負担により積極的に推進する。
- (2) 一方、本格的な舞台芸術を提供するという、劇場の本来の目的を達成するため、自主事業、共催事業により優れたバレエ・オペラを招致することが想定される。こうした取組は、チケット代による回収を目指すものの、公費負担もやむを得ないことが考えられる。

3 実演団体から選ばれる劇場

- (1) 世界クラスの実演団体から選ばれる劇場のあり方について追及する必要がある。国内の他の劇場ではなく、あえて横浜が選択される劇場とは何かを検討する。
- (2) 何よりも集客力が重要であるが、オペラの連続公演の可能性などのために設備関係を充実させるなどはひとつの大切なポイントでもある。

4 劇場運営の戦略づくりについて

資料4-1に示すように、2つのステップについて、実現性を考慮し、期間を設定し、目標像達成への見通しを立案する。

5 民間企業による支援

資料4-2に示すように、民間企業による劇場運営への主体的な取組につなげるため、民間企業による組織づくりを早い段階から取組む必要がある。こうした組織との協議なども経て、運営体制の具現化を図る。